

EU Indicators

欧州経済指標コメント：11月ユーロ圏消費者物価（速報）

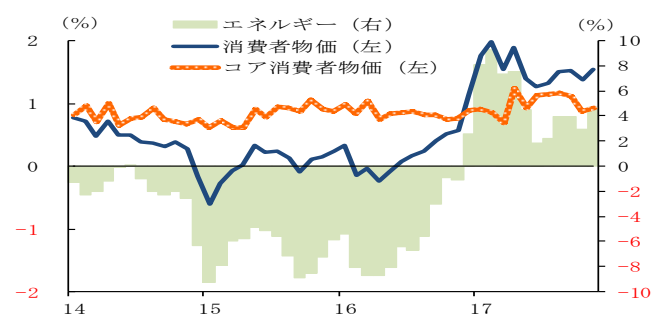
発表日：2017年11月30日（木）

～コア物価不発～

第一生命経済研究所 経済調査部
 主席エコノミスト 田中 理
 03-5221-4527

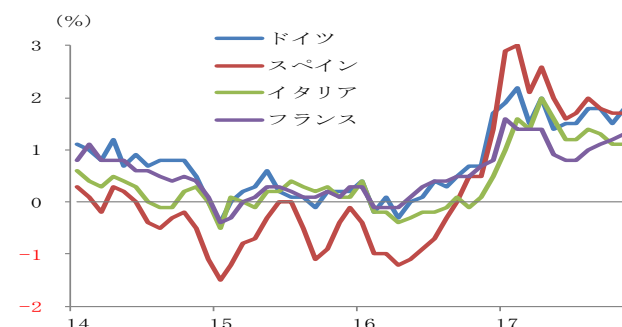
- 11月のユーロ圏の消費者物価の速報値は前年比+1.5%と前月の同+1.4%から上昇率が僅かに加速。速報段階で入手可能な内訳は、食料・アルコール飲料・たばこ価格（前月：同+2.3%→今月：同+2.2%）の上昇率が鈍化した一方で、エネルギー価格（同+3.0%→同+4.7%）の上昇率が再加速し、全体の計数を押し上げた。コア物価（同+0.9%→同+0.9%）の上昇率は前月から不変（四捨五入前は同+0.89%→同+0.93%と僅かに加速）。
- 発表済みの国別計数（統一基準ベース）は、ドイツ（同+1.5%→同+1.8%）とフランス（同+1.2%→同+1.3%）で上昇率が加速した一方、イタリア（同+1.1%→同+1.1%）とスペイン（同+1.7%→同+1.7%）が不変。前日に発表されたドイツの消費者物価がパッケージ旅行の上振れで加速していた割に、ユーロ圏の計数は弱かった。特に前月に下振れしていたコア物価の上昇率が横這い推移にとどまった点は気懸かり。ドイツのパッケージ旅行の上振れを相殺したのが、他国の特殊要因なのか、基調的な物価の弱さかの判断は、詳細な内訳が確認可能な12月18日の確報値の結果を待つ必要がある。
- 最近のECB高官（バイトマン独連銀、クーレ理事、クノット蘭中銀総裁）の発言は、来年9月以降の資産買い入れの再延長に否定的な発言が目立つ。ただ、コアの下振れが続く場合、小幅再延長も視野に入ってくる。今回の物価計数の発表後はユーロ安が進んでいるが、ドイツで再選挙回避観測が高まった後は、ユーロ高方向に振れていた。買い入れ終了が意識され過ぎると、ユーロ高進行で物価に下押し圧力が働きやすいため、今後のECB関係者の発言はより慎重に傾く可能性がある。

■ユーロ圏：消費者物価（前年比）



注：コア物価は食料・たばこ・アルコール・エネルギー除く
 出所：Eurostat

■ユーロ圏：主要国の消費者物価（統一基準、前年比）



出所：Eurostat

■ユーロ圏の消費者物価（%）

	2016	2017		2017										
	4Q	1Q	2Q	3Q	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	
消費者物価（前期比）	0.4	0.7	0.1	0.2	-0.1	0.2	-0.1	0.0	0.1	0.2	0.1	0.0	0.2	
（前年比）	0.7	1.8	1.5	1.4	1.5	1.9	1.4	1.3	1.3	1.5	1.5	1.4	1.5	
コア消費者物価（前年比）	0.8	0.8	1.1	1.2	0.7	1.2	0.9	1.1	1.2	1.2	1.1	0.9	0.9	
食料/アルコール/たばこ（前年比）	0.8	2.0	1.5	1.6	1.8	1.5	1.5	1.4	1.4	1.4	1.9	2.3	2.2	
食料（前年比）	0.5	2.1	1.3	0.0	1.7	1.3	1.4	1.2	1.1	1.2	1.8	2.4	—	
アルコール（前年比）	0.9	0.6	0.6	0.0	0.9	0.3	0.9	0.6	0.8	0.7	0.6	0.7	—	
たばこ（前年比）	2.3	2.7	3.2	0.0	2.9	3.5	3.0	3.1	3.2	3.3	3.2	3.3	—	
エネルギー（前年比）	0.2	8.2	4.6	3.4	7.4	7.6	4.5	1.9	2.2	4.0	3.9	3.0	4.7	

注：消費者物価の前期比は季節調整後。コア消費者物価は食料・アルコール・たばこ・エネルギーを除く。出所：Eurostat

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。